

第34回 笠ヶ森山開き

令和7年5月18日(日)

集合・受付
安全祈願祭
登山開始
下山開始

7:30~8:00
8:00
8:20
11:30



《登山コース》

滑川砂防ダムからスタートし、県道中野・須賀川線を上り登山道入口(看板あり)から入山する。材木搬出道跡地を登って、にわとり峠に出る。そこから北側へ蛇行コースを登り山頂を目指す。

下山コースは、にわとり峠から西側への山道を通り、沢を二つ越え、国有林の萱山に出る。川(飛び石あり)を渡り、登山道出口から県道中野・須賀川線に出て、県道を下り、滑川砂防ダムに戻り解散。

岩瀬地区の伝説（八幡太郎義家伝説）をたずねて・・・

岩瀬地区には八幡太郎義家に関わる地名伝説が多く、「八幡太郎義家」は平安時代後期の武将で、源頼義を父に持ち、八幡神の夢告により生まれ、七歳の時に石清水八幡宮の宝前で元服したことから八幡太郎と号したとされる。前九年の役、後三年の役の時に奥州を舞台に活躍し、その武勇が現在に伝えられているのだが、こうしたことから義家の歩いたとされる所には必ずといっていいほど伝説が残っており、岩瀬地区もその一つである。

☆岩瀬地区の地名伝説例話☆（その一部を紹介します）

①八幡岳

標高 1,102 メートル。古歌に詠する「岩瀬山」が、この八幡岳とされる。天喜・康平中、八幡太郎義家が東征の際にこの山の頂上に陣を敷き、八幡大神を祀ったところから「八幡岳」と名付けられたと伝えられる。

②笠ヶ森

後三年の戦いに敗れた八幡太郎義家が、退却の際にこの山の無数の木々に菅笠を結びつけて追っ手に対して自軍の武威を示したところ、敵の軍はその笠を兵の数と勘違いをして大いに驚き、恐れ退散したと言い伝えられる。これ以降、この山を「笠ヶ森」と呼ぶようになったという。

③七ツ石

昔、八幡太郎義家が東征の際に、朝廷の武威を示さんがために八幡岳の頂上から大石七ツを投げ下ろした場所から名が付いたと言い伝えられる。また、八幡太郎義家が東征の際に、大石七ツを七曜星にかたどって戦機を占い戦勝を祈願したことから名付けられたとも言い伝えられる。

その他にも数々の伝説が残っています・・・。

「綱取り不動 道祖神」について

義昭という偉いお坊さんが、京都から特に勧請された。男女陰陽併体のご神体に「家庭円満」「交通安全」「健康増進」「福寿増長」のご霊験があると昔から言い伝えられている。

平成 23 年度に、地元有志による「里守屋ふるさとを考える会」が、須賀川市ふるさとづくり支援事業として、「綱取り不動 道祖神」周辺の整備を行った。

いわせ悠久の里（Tel. 0248-66-1582）

入浴時間

午前 10 時～午後 9 時まで（最終受付 午後 8 時 00 分）

休館日

毎週月曜日（月曜日が国民の祝日の場合は火曜日）

1 月 4 日～1 月 6 日（※年末年始は営業）

入浴料金

1 回券：大人（中学生以上）360 円、子ども（小学生以上）200 円

1 日券：大人（中学生以上）730 円、子ども（小学生以上）260 円

